

# iPad

## の 研究 番外編

### 電通が開発アプリ「Scan it」

iPhoneを平面媒体にかざすだけでコンテンツ自動再生するASPサービス

今回はiPadではなく、iPhoneの興味あるアプリを紹介する番外編。電通は9月10日、「Scan it(スキャンイット)」を発表し、クライアント企業に向けてASPサービスを開始した。アプリ「Scan it」を開発した株式会社電通コミュニケーション・デザイン・センターの森直樹モバイルコミュニケーション開発部プロデューサーに活用イメージとサービスを聞いた。

(レポート:吉井勇・本誌編集長)



モバイルコミュニケーション開発部の  
森直樹プロデューサー

#### 本誌の表紙レポートで使いたい

本誌の取材で考えてきたことがある。それは本誌の表紙は新しい技術テーマを取り上げているが、それらの多くはソフトウェア技術であったり、バーチャル的な映像表示が増えてきて、一瞬を捉える写真と文章だけでは伝えきれないという「モッタイなさ」を感じていて、うまく動画レポートを表紙記事に紐付けできたらなと考えていた。QRコードを使うという手もあるが、あの特殊マーカーを印刷して……となると、今ひとつピンとこなかった。

電通が、表紙そのものを変更することなく、iPhoneを使って動画などのメッセージにリンクさせるアプリを発表したのである。さっそく興味津々で取材した。

#### 最新画像認識技術を採用

開発を担当した森プロデューサーは、「従来のiPhone用画像認識アプリは、商品パッケージや平面媒体広告などに指定コードを読み取るための特殊マーカーを印刷するという加工が必要でした。そこで、先進の画像認識技術を応用し、平面画像自体をそのまま画像イメージとして認識できるようになったのです」と説明する。「その先進技術とは」と聞いたところ、「それは外部の技術ベンチャーのもので、詳しくは説明できませんが、読み取りの精度が高い技術です」と話す。

iPhone上で展開するユーザー側の流れは、iPhoneのアプリ「Scan it」(APP Store

から無料でダウンロード)を起動し、対象となる画像にかざして認識させる。そうするとiPhoneで動画や音楽、サイトへのアクセスなど、画像に紐付けられた指定コンテンツが自動で再生、展開する。

#### ASPだから手軽に導入可

クライアント企業は、電通がASP提供する「Scan itサービス」を活用することで、認識させる画像や展開するコンテンツなどがScan it専用サーバーを使って配信できる。つまり、ユーザー企業は自社でインフラを設計する必要がないため、手軽に採用することができる。まさにキャンペーン展開にはうってつけだ。

「画像認識の代わりにQRコードを採用していただくこともできます。その場合も、指定のQRコードにかざすだけで、さまざまなコンテンツへナビゲーションできますので、これまでのQRコード利用に比べて手間が省けるサービスになります」(森プロデューサー)。

iPhoneを広告ツールとして展開しようという野心ある技術チャレンジである。確かに、iPhoneユーザー数は2008年8月から2010年2月の半年間で257%の伸び、約272.5万人が契約。その約55%が男性、年齢層では20代から40代で80%以上を占めるという「とんがったメディアユーザー」層であるという。そんな層に、リアルな媒体から拡張するメッセージへダイナミックブリッジする手立てが新たに一つ登場した。

#### 〔図〕 Scan itサービス概要

